

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部1年次生 長谷 萌花

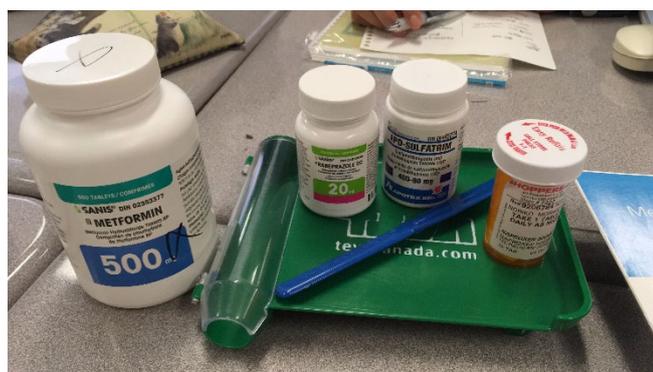
## 1. はじめに

令和元年8月18日から25日までの一週間、国際交流基金の助成を受け、カナダのバンクーバーで行われたサマープログラムに参加したことについて報告致します。滞在中は、ホームステイをしながらOxford International/Eurocentres Canadaに通い医療英語のレッスンを受け、また医療施設の見学も行いました。

## 2. 語学学校

語学学校では、午前中にネイティブの先生から医療英語のレッスンを受け、午後に医療施設の見学や現地で働く薬剤師や看護師の方をゲストスピーカーとしてお招きし、講演を聞いたりしました。授業はペアになって英語で会話をしたり、グループで問題を解いたりといったアクティブラーニング形式で行われました。そのため、新たに習った単語なども身に付きやすく、英語を話すことに対する苦手意識も日に日に薄れていきました。毎時間の授業が楽しく、充実した時間を過ごすことが出来ました。

ゲストスピーカーによる講演は、語学学校で行われました。薬剤師の方は、カナダでの薬剤師及び薬局の仕組みや内情を教えてくださいました。実際に使われている薬の容器や機械を見せていただき、興味深いお話を聞くことが出来ました。看護師の方は、カナダのドラッグ事情についてスライドを使って詳しく説明してくださいました。カナダでドラッグがどのように扱われているのか、またドラッグ患者に対しどのように対応しているのかといった話はあまり聞く機会がないので、とても貴重な機会となりました。



## 3. 医療施設見学

語学学校で授業を受けた後、カナダの施設を見学させていただく機会がありました。私たちが訪れたのは、病院、超音波検査施設、薬局、ファミリークリニック、血液検査施設の5

か所でした。それぞれの施設の関係者の方が施設を案内し、施設内や仕組みや使用されている機械の説明をしてくださいました。日本とカナダでは医療制度などが違うので、日本にはない医療施設を見学し、カナダの医療の仕組みについて知ることが出来たのは本当に良い機会になりました。

#### 4. ホームステイ

今回私は、家から学校まで40～45分ほどのノースバンクーバーにある家に大学の先輩と2人でホームステイをしました。山の中の住宅地の1つで、家の周りにお店などはありませんでしたが、自然豊かでとても心地よい場所でした。ホストファミリーは私たちをととても歓迎してくれました。ホストファミリーと一緒に時間を過ごすことはあまり出来ませんが、毎日私たちのことを考えて優しく接してくれました。彼らのおかげで、私たちは毎日元気で楽しく生活することが出来ました。本当に感謝しています。



#### 5. 観光

授業後は、自由に観光することが出来ました。バンクーバーのいろいろな有名な観光地にいったり、美味しいご飯やお菓子を食ったり、お土産を選んだり。放課後の限られた時間の中でも、交通の便が良いため十分に回ることが出来ました。



## 6. おわりに

私は、この1週間とても充実した時間を過ごすことが出来ました。英語や医療に関する様々な知識を得ることが出来たし、いろいろな体験を通して自分に自信をつけることができました。それは、このプログラムに参加する私を支えてくれたあらゆる方々のおかげです。無事にプログラムを終了出来たことを皆さんに報告し、感謝の意を伝えたいです。

これからいろいろな挑戦をして、自分自身を成長させていきたいと思います。

